

# まちこの県政報告



Vol.5

MACHIKO ARICHIKA  
PREFECTURAL ASSEMBLY REPORT

発行元／有近まちこ事務所 発行日／2021年9月3日

まちこの主張を分かりやすくお伝えします。

- 健康になるとポイントがもらえる？！
- タコ壺が海を救う？！
- 葉酸サプリが少子化対策に効く？！

やない西蔵の  
草木染体験で染めた  
スカーフです！



デジタル・環境・少子化など  
今、注目の課題を質問しました！

文教警察委員会が携わる分野は、教育（教育委員会）や公安（公安委員会）などの分野です。具体的には、学校教育の充実、生涯学習の推進、学校スポーツの振興、犯罪の予防、交通安全対策などが挙げられます。

なかでも教育は、私にとってとても関心の高い分野であり、その大切さを日々、痛感しています。また、治安の維持、交通安全対策についても、小さな子を持つ親として、老いゆく親を持つ子として、地域住民の一人として、とても身近な課題だと捉えています。

これまで所属していた環境福祉委員会でお世話になった行政・民間の方々、諸先輩議員との交流、学び、経験を糧に、子どもたちへのより良い教育と県民の安心安全のため、心新たに、しっかりと職責を果たしていきたいと思っています。



拝命しました！  
文教警察委員会  
副委員長

山口県議会議員・弁護士

有近 まちこ



ツイッター



インスタグラム



ホームページ



フェイスブック

## まちこのDay by Day

地域での活動や調査に奔走し、県の仕事に励み、国にも協力を呼びかけた毎日でした。

レンタカウとは放牧牛の貸し出しを行う制度です。山口県では20年前から、耕作放棄地に牛を放牧し、草の「下刈り」ならぬ「古刈り」を進めています。この日は、柳井市でレンタカウを利用中の農家を訪問。農地再生、景観保全、そしてイノシシの被害も減少し、近所の子どもにも人気とのことでした。



「レンタカウ」問合先は柳井農林水産事務所畜産部

■レンタカウ利用中の農家さん訪問

山口県弁護士会の法教育委員会では、高校生を対象に「主権者教育」の授業を行っています。授業では、投票の大切さに触れ、架空のマニユフェストを使って模擬投票を実施。また、議員の活動内容についても説明。若者のための政策を充実させるためにも、投票して欲しいと伝えました。



授業風景（山口県立下関工科高等学校）

■高校で「主権者教育」の授業を実施

柳井港港湾整備、県道柳井上関線、土穂石川の河川改修を視察。柳井上関線は今年度中に八幡団地まで部分共用開始の予定です。暮らしの安心安全に関わるこれら事業の早期完了を、引き続き要望していきます。



部分共用開始目前の柳井上関線の視察

■県の土木工事、視察

施設はやまぐちフラワースタンドの隣にあります。品種や栽培技術の研究など、県内の花き生産を支えています。需要が高まっている小さなユリ「プチシリーズ」やリンドウの「西京シリーズ」など、長年の活動が成果を生んでいます。



山口県花き振興センターの視察

■県の農林事業、視察



柳井商工会議所での懇談会



県知事へ柳井地域の道路を要望



株式会社島商 進出協定披露式



農業女子会への参加（柳井市）

## 一県議会6月定例会一般質問

1 旧姓の通称使用の拡大について

「選択的夫婦別姓」導入を急ぐのではなく、慎重な議論を進めながら、「旧姓の通称使用拡大」を促進するべきとの考えを伝えました。県からは、国における議論・検討を見守っていききたいとの回答を得ました。

2 デジタル改革の推進に向けた市町への支援について

中面でご報告

3 安心・安全な妊娠・出産に向けた葉酸摂取の促進について

中面でご報告

4 女性労働力の獲得について

人口減少社会のなか、女性労働力確保が課題になっています。そこで、県庁が率先して女性活躍の環境を整えながら、「えるぼし認定制度」（女性の活躍推進状況が優良な企業対象）の普及など、全県へのPRが必要との考えを伝えました。県からは、「えるぼし」取得の働きかけを含め、今後とも積極的に取組むとの回答を得ました。

5 豊かな瀬戸内海の再生について

中面でご報告

6 公共工事での地産・地消の取組について

地産地消の推進には、地域産業振興・流通経費減・CO<sub>2</sub>削減等の効果があります。公共工事に使用する製品（コンクリート他）も、計画段階から県産品の利用拡大を進める必要を伝えました。県からは、公共工事において、県産品の利用推進についての具体的な取組の報告を受け、今後も積極的に推進するとの回答を得ました。

## 「ぐあいさつ」



やない西蔵で草木染体験。  
この時に染めたスカーフを  
着けて一般質問に登壇しました。

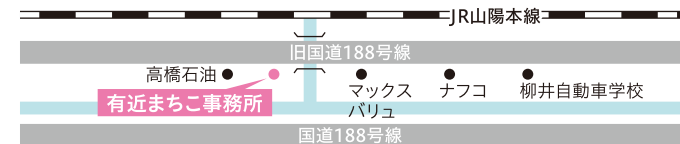
おかげさまで、一期目も振り返りを過ぎて任期も後半になりました。この間、支えてくださった多くの方々に、心より感謝を申し上げます。

本県では関係する皆様のご尽力により、ワクチン接種が全国トップクラスのスピードで順調に進んでいます。これと同様に経済回復の施策についても、全国をリードする意気込みで行っていかねければならないと考えています。

これまで以上に県民の皆様の声や思いをしつかり受け止め、県政与党の一員として県執行部に対して、機を逸することのない施策提案を行って参ります。



地域の伝統行事「粟島大明神大祭」に  
疫病退散と無病息災を願って家族で  
参加しました。



有近まちこ事務所

〒742-0011 山口県柳井市新市沖5-20 TEL/0820-25-3910

FAX/0820-25-3950 E-mail/arichikamachiko@gmail.com



デジタル改革の推進に向けた  
市町への支援について

大切な  
ことは…

**デジタル化で解決すべき課題は住民から吸い上げよう！  
各市町への人材育成などの支援が重要！**

先日、山口功作さんと意見交換をしました。山口さんは、デジタル先進国・エストニアと日本政府の橋渡し役を努めた後、地方自治体にデジタル化についての助言をされています。

話題になったのは、高松市(香川県)での取組です。

香川県は「うどん県」と自称するように、うどんの産地であり、一世帯の家計支出も全国1位。そのせいか、糖尿病による死亡者数が全国3位という不名誉な記録を持っています。

そこで、デジタル技術を使ってこの問題を解決するシステム「とくとくマイヘルスケア」が考案されました。住民の健診データをデータセンターに蓄積。健康状態を示す数値の改善が見られると、個人にポイントが付与されます。そのポイントは、公共交通機関や加盟店舗で現金と同じように使うことができるようになるそうです。またAの分析により、健康指導をしてくれる等のサービスも受けられるようになるそうです。

高松市では他にも、離島問題、買物難民等、地域課題の解決のため、デジタル技術を活用していくとのお話でした。

山口さんからは二つの大変重要なことを学びました。

- ① デジタル化は「目的」ではなく、地域課題を解決する「手段」
- ② 地域課題は各地で異なるから、住民・企業から吸い上げる



DXアーキテクト・山口功作さん

エストニア共和国と日本政府のパイプ役を15年間努めた後、DXアーキテクト(デジタル化のシステム設計者)として地方自治体へのアドバイスを実施。総務省「地方自治体のDX推進に係る検討会」構成員。エストニア大統領よりテッラ・マニアナ十字勲章を受賞。

デジタル化により地域課題を解決する「やまぐちデジタル改革」を進め、その恩恵を行き渡らせたいと考えています。それを担う場として官民協働フォーラム「デジタルテックfor YAMAGUCHI」を立ち上げました。その一環、「シビックテックチャレンジAMAGUCHI」では、行政の課題解決を目指し、課題も多く寄せられているところです。これらの効果を得るためには、各市町へデジタル技術のノウハウ提供や人材育成を進める必要があります。「やまぐちDX推進拠点(今年秋開設予定)」は、これの実施を担うことになっています。また、この取組みの成果(アプリ等)は、「山口県デジタル・ガバメント構築連携会議」にて共有し、各市町にも横展開を図ることにしています。

#### 県の回答

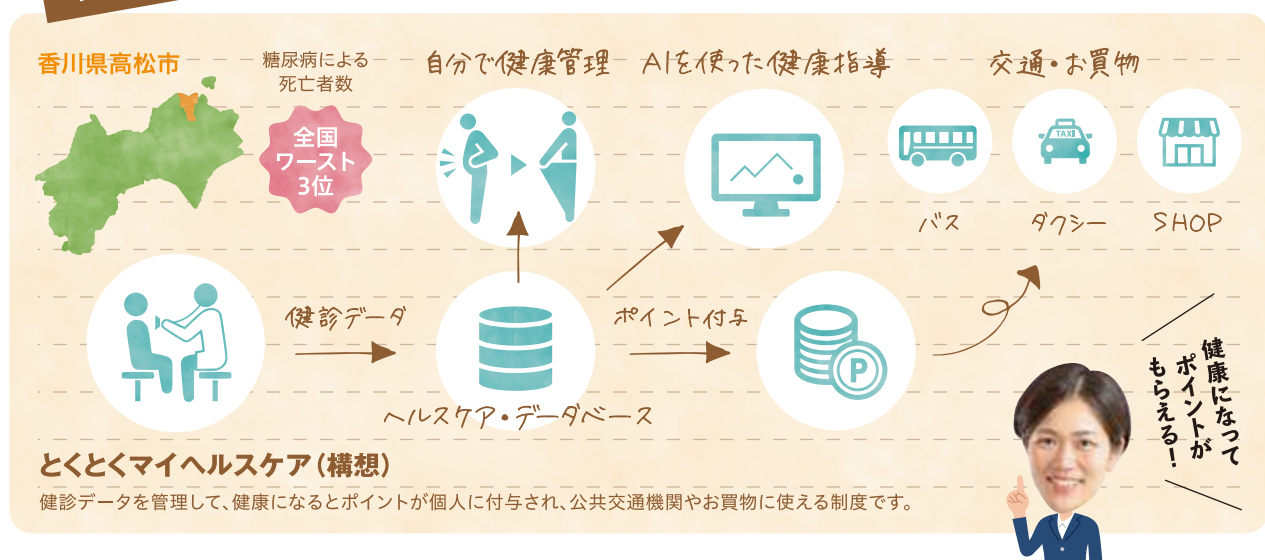
さて、山口県では「シビックテックチャレンジAMAGUCHI」という、デジタル技術により地域課題を解決するプロジェクトが進められています。しかし、解決すべき課題は県庁や市町からの提案によるもので、行政の業務上の課題が多くを占めています。

そこで私は、解決すべき課題そのものを、住民や企業からも広く募集する必要があると県に伝えました。その提案の収集や分析にも、デジタル技術は大いに活躍するはずだ。

また、これら地域課題を解決するとき、各市町においてもデジタル技術に対応できる人材とノウハウが必要になります。とりわけ小規模な市町には、県による人材育成等の支援が欠かせません。このことを訴え、県の取組みについて質問をしてきました。

## 健康になるとポイントがもらえる?!

まちこの  
事例研究



豊かな瀬戸内海の再生について

大切な  
ことは…

**藻場の再生と  
栄養塩類コントロール**

防府市末田地区に素焼きのタコ壺を作る青年・久野公寛さんがいます。末田地区は昔からタコ壺作りが盛んでしたが、プラスチック製が主流になり、製造に使用する登り窯も長い間使われていませんでした。久野さんはその登り窯に魅せられて、タコ壺の製造を復活させたそうです。

タコ壺は漁に使用するものと思っていましたが、タコには格好の産卵場所にもなるそうです。久野さんのタコ壺のほとんどは産卵用として使われ、朽ちるとそのまま土に還ります。つまり、タコの繁殖に役立ちながら、他の生物にとっても大切な藻場を生み出すのです。

さて、これまで行政は「きれいな海」を目指して各種規制をつくり、効果を上げてきました。しかしその一方で、海藻や植物プランクトンの生長に必要な栄養塩類(窒素、リンなど)が不足する事態となり、それが漁獲量の減少を招いているとも言われます。行政の目標は「きれいな海」から、「豊かな海」へと方向転換を図ろうとしているのです。このたび、「瀬戸内海環境保全特別措置法」が改正され、地域住民を含む関係者と合意の上、下水処理能力を調整し、栄養塩類濃度を適切に高めることが可能になったことも、その流れの一つです。

豊かな海の恵みを  
未来の  
子ども達に!



山口県も、これまで以上に藻場の再生に取組むと共に、栄養塩類濃度のコントロールにも積極的に取組む必要があります。また、そのためには、漁業関係者だけではなく、住民の理解と協力、機運の盛り上がりが必要だと感じます。タコ壺作り復活の物語を発信することも、その一助になると思います。

#### 県の回答

県としても、一層の藻場再生等を進めると共に、栄養塩類濃度をコントロールする制度の導入を検討し、県民を含む関係者と連携し、「豊かな海」を目指して取組みます。



タコ壺作りを復活させた久野公寛さんと協力者の木下亜衣子さん

防府市末田に残されていた登り窯を使って、素焼きのタコ壺を製造。漁業関係者により、タコの産卵用として利用されている。人気ブランド・BEAMSにコンポストとタコ壺として採用された。

大切な  
ことは…

**安心・安全な妊娠・出産に向けた  
葉酸摂取の促進で少子化対策を  
妊娠前、葉酸摂取の必要を  
もっと周知する取り組み**

「神経管閉鎖障害がい」という言葉をご存じでしょうか？

妊娠初期は、赤ちゃんの脳や脊髄へ発達する神経管が作られる大切な時期。その時、葉酸(ほうれん草等に多く含まれる栄養素)が不足すると、神経管がふさがれ、体の障がいや死産などに至るそうです。

これに有効なのが妊娠前からの葉酸サプリメント摂取です。県内での妊娠前からの服用率は15.2%に留まっています。

県においても、全県的にこれについての周知活動や市町の取組みの支援を積極的に行う必要があります。

#### 県の回答

保健師への研修、若い世代への公開講座、妊娠初期女性への直接的な通知システム(構築中)などにより、一層、葉酸摂取の周知啓発と促進に積極的に取組みます。



#### ■ 県内の事例

##### 葉酸サプリメント配布事業(防府市)

全国に先駆けて令和2年4月より、婚姻届や妊娠届を提出した人へ葉酸サプリメントを無料で配布する事業が始まっている。



佐世正勝 医師  
山口県立総合医療センター  
総合周産期母子医療センター長

学会などの様々な機会を通じて、葉酸の重要性や妊娠前からの摂取を強く提唱。防府市での無料配布事業の実現は先生の提唱がきっかけになった。